

ひょうごの 遺跡

105号

(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 兵庫県立考古博物館内 TEL.079-437-5561 FAX.079-437-5591 URL:<http://www.hyogo-ctc.or.jp/>

発掘調査の成果

令和3年度

丘陵斜面に営まれた集落

―池尻東山遺跡(小野市池尻町)

複数の埋葬施設をもつ古墳

―市場南山1号墳(小野市市場町)

但馬と播磨の境界周辺の集落

―中村遺跡(養父市大屋町)

古代～中世の居住域を確認

―玉津田中遺跡No. 164 地点

(神戸市西区平野町)

中世の屋敷地と水田跡

―玉津田中遺跡No. 175 地点

(神戸市西区平野町)

特集

県内の埋蔵文化財担当職員向け専門技術研修

登り田遺跡での発掘調査現場研修

ひょうごの掘り出しもの ～第3回～

経塚のある風景

南上空からみた池尻東山遺跡

丘陵斜面に営まれた集落

いけしりひがしやま

池尻東山遺跡（小野市池尻町）

池尻東山遺跡は加古川東岸、小野台地の西端部に発達する丘陵の南側斜面に立地します。県道加古川小野線（東播磨道北工区）の工事に先立ち、発掘調査を行いました。

調査の結果、古墳時代後期後半～飛鳥時代前半頃の集落跡がみつかりました。斜面を大規模に切り盛りして平坦面を造り、そこにカマドと煙出しをもつ^{たてあな}竪穴建物や^{ほったて}掘立柱建物がつくられていたことがわかりました。平坦面は大きく上・中・下段の3段に分かれます。建物を建て替えた様子もうかがえ、当時の人々はこの場所で継続して生

活を営んでいたようです。

遺跡からは、須恵器、土師器、鉄器が出土しました。また、竪穴建物跡の床面をはじめ、いくつかの場所で火を受けた痕跡がみられました。調理時に火を焚くカマドに伴うものに加え、^{てつかじ}鉄鍛冶などのモノづくりに伴う可能性があるものも存在します。

当遺跡のような、丘陵斜面に集落を営む例はあまり知られていません。約1,400年前の人々の生活の様子的一端を知りうる貴重な成果となりました。

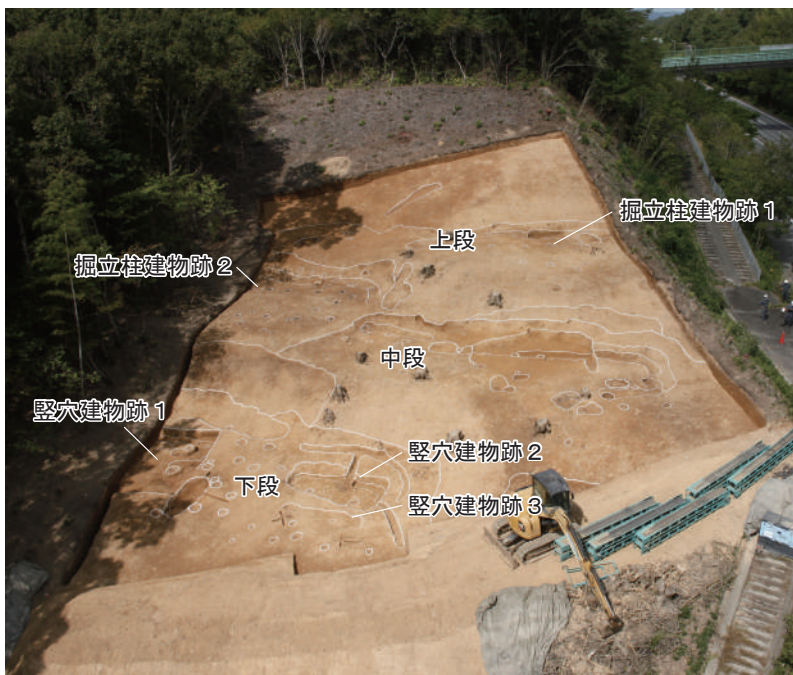
（調査第1課 稲本悠一）



竪穴建物跡1（西から）



掘立柱建物跡2（南から）



調査区全景（南上空から）



竪穴建物跡2のカマドと煙出し（南から）



須恵器 出土状況

複数の埋葬施設をもつ古墳

いちばみなみやま

市場南山1号墳（小野市市場町）

市場南山1号墳は池尻東山遺跡の北方約1 kmの丘陵上に立地します。県道加古川小野線（東播磨道北工区）の工事に先立ち、発掘調査を行いました。

古墳は古墳時代後期後半（約1,400年前）のもので、直径約8 m、高さ約0.8 mの円墳です。幅約1.2 mの周溝を伴います。

墳頂において3基（第1～第3主体部）、

南側の墳丘斜面において1基（第4主体部）、合計4基の埋葬施設を検出しました。いずれも並列しており、中には木棺が入られたようです。これらのうち、第4主体部には、棺内に鉄刀と鉄鏃、棺外に須恵器が副葬されていました。

古墳時代の墓制を解明する手がかりとなりそうです。（調査第1課 稲本悠一）



市場南山1号墳全景（北から）



第4主体部（西から）



鉄刀・鉄鏃 出土状況

但馬と播磨の境界周辺の集落

なかむら

中村遺跡（養父市大屋町）

中村遺跡は、山間を蛇行する明延川の河岸段丘上に立地する集落遺跡です。県道養父宍粟線門野バイパス道路改良事業に伴い発掘調査を行いました。

段丘縁辺の農道に沿った延長約60 m、幅約5 mの狭小な調査区からは、竪穴建物跡4棟のほかに100基を越える柱穴など、多数の遺構がみつけられました。竪穴建物跡は2棟が弥生時代末～古墳時代初頭、残る2棟が古墳時代末～飛鳥時代のもので、柱穴については詳細な時期は不明ですが、異なる時期に複数の建物が存在したことがわかりました。

遺跡のある宮本地区と隣接の門野地区の現在の集落は山裾に集中していますが、かつては周辺の段丘上にも広く集落が営まれ

ていたことが明らかとなりました。

宮本周辺の段丘一帯に弥生時代から現在まで複数時期に渡って集落が連綿と営まれ、中世には但馬と播磨の国境付近の要衝として遺跡周辺の山に山城群が築かれていることから、当地が地域の境界周辺地として重要な位置にあったといえます。

（調査第2課 垣内拓郎）



調査地と宮本の集落（北上空から）

古代～中世の居住域を確認

たまつたなか

玉津田中遺跡 No.164 地点 (神戸市西区平野町)

玉津田中遺跡 No.164 地点は明石川東岸の段丘上に立地しています。一般国道2号(第二神明道路)建設事業に先立ち、発掘調査を行いました。

調査の結果、古代～中世にかけての掘立柱建物跡や土坑、炉跡、溝、柱穴群などを

検出しました。

掘立柱建物跡は調査区全体で12棟検出しました。建物は柱穴内の出土遺物から古代のものと中世のものがあり、複数の時代で同じ場所に建物を建てていることがわかりました。

掘立柱建物跡7は6間×2間以上の規模をもつ総柱建物です。建物を構成する柱穴内より須恵器や土師器が出土しており、時期は11世紀～12世紀頃と考えられます。

掘立柱建物跡8は3間×2間の規模をもつ総柱建物です。建物周辺の出土遺物から時期は8世紀代と考えられ、性格は倉庫と想定されます。

掘立柱建物跡以外にも、土師質羽釜や須恵器甕が出土した土坑、礫を意図的に埋めたと思われる溝など注目すべき遺構がみつかっています。

今回の調査によって、段丘上に古代～中世の居住域が広範囲に展開していたことが明らかとなりました。玉津田中遺跡における土地利用の変遷を把握する上で重要な手がかりを得ることができましたと言えます。

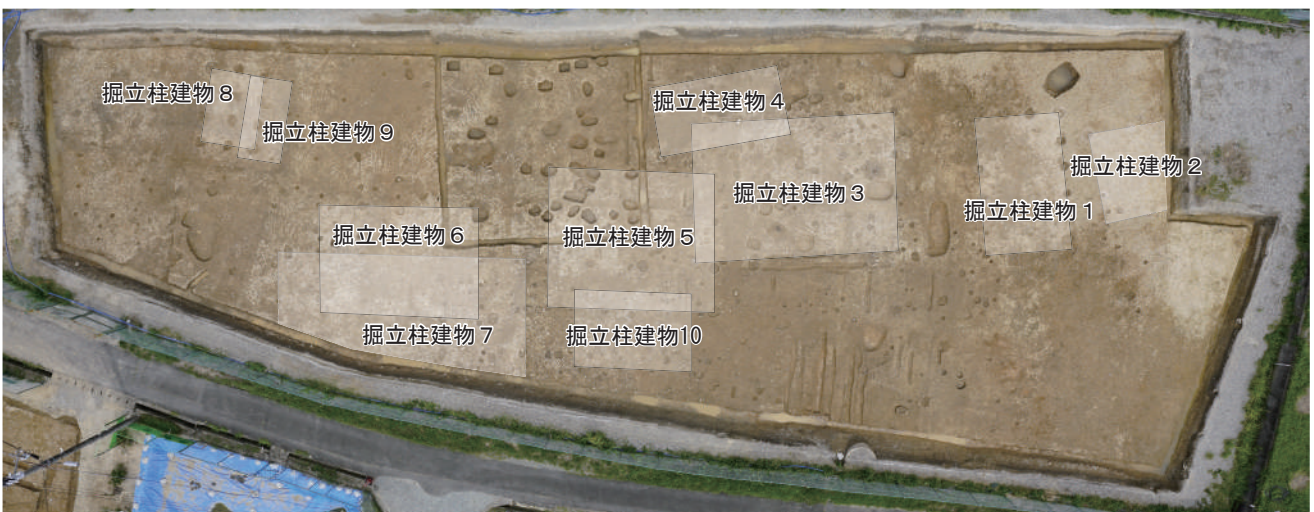
(調査第1課 鈴木郁哉)



掘立柱建物跡7全景(東から)



掘立柱建物跡8全景(南から)



調査区全景(上が北)

中世の屋敷地と水田跡

玉津田中遺跡 No.175 地点 (神戸市西区平野町)

玉津田中遺跡 No.175 地点は明石川東岸の沖積地に立地しています。一般国道2号(第二神明道路)建設事業に先立ち、発掘調査を行いました。

調査の結果、第1面では中世の屋敷地及び水田跡等、第2面では弥生時代～古墳時代初頭の溝を検出しました。

第1面で検出した屋敷地はコ字状の溝で区画されており、規模は一辺約20mです。屋敷地内では4間×3間の掘立柱建物跡や柱穴群、土坑などがみつかりました。また、屋敷地の北側では水田跡を検出しました。

屋敷地や掘立柱建物、水田跡は主軸を北北東-南南西方向に揃えていました。これは明石郡条里の方向と一致します。

遺物は溝から土師器鍋や漆碗^{うるし}などが出土しているほか、土坑からも須恵器碗や土師器皿などが出土しています。屋敷地の時期はこれらの出土遺物から14世紀代と考えられます。

第2面では溝を1条検出しました。溝や遺物包含層からは弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物が出土しています。

今回の調査では、特に中世の溝で区画さ

れた屋敷地が注目され、当該期にこの場所が居住域として利用されていたこと、またその北側に水田が広がることが明らかとなりました。当時の土地利用の様子がうかがえます。

(調査第1課 鈴木郁哉)



調査区遠景 (北西上空から)



掘立柱建物跡 (上が東)



調査区第1面全景 (上が南東)

県内の埋蔵文化財担当職員向け専門技術研修

兵庫県まちづくり技術センターでは、兵庫県教育委員会との共催で、県内の埋蔵文化財業務に従事する、県、市、町の若手職員に向けて、様々な専門技術の研修を実施しています。

研修は、主に文化財保護行政について学ぶ講義のほか、埋蔵文化財業務に関わる専門的な技術を実践的に学ぶ実習を、二日間に渡って実施しています。特に、発掘調査や出土品整理などに必要な知識や技術を実地で学べる実習は、設定したテーマに合わせて様々な体験ができ、「研修では是非こんなことを学んでみたい」といった、参加者からの要望に応えたメニューも取り入れています。

令和3年度は、10月6日・7日に実施し、県内14市町、合計20名の若手職員が参加しました。



出土品整理に関する現地講義



土器の接合実習

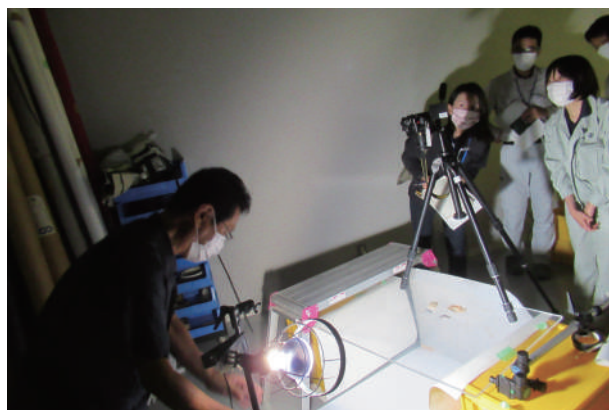
初日の文化財保護行政に関する講義や出土品整理後の保管管理の講義に引き続き、二日目は、出土品整理に関する講義と遺跡から出土した土器を接合する実習、遺物の写真を撮影する実習を行いました。

土器の接合作業は、発掘調査で出土した土器を復元する上で、最も基本的な作業です。この作業をより正確に、かつ効率的に進めるためには、発掘調査（野外）での取り上げ方法や接合作業（室内）をする前の分類作業が重要なことなどを理解した上で、実際に土器の接合作業を体験しました。

また、遺物の写真撮影は、遺物自体のもつ質感や文様などをより忠実に再現した画像を記録するための作業です。実習では、遺物のセッティングに始まり、ライティング、絞りやシャッタースピードなどに関する基礎的な技術から、遺物の特徴を際立たせるためのより高度な撮影技術を学びました。そして、参加者が持参したカメラを使用して、遺物写真撮影を体験しました。

「実際の遺物を使った体験ができてよく理解できた」と好評で、今後もこのような研修をとおして、埋蔵文化財担当職員の技術向上に寄与できればと思います。

(整理保存課 深江英憲)



遺物写真撮影実習

のぼりた 登り田遺跡での発掘調査現場研修

私は、高砂市で文化財を担当しています。この度、発掘調査の様々な技能を習得し、調査員として円滑に発掘調査を遂行できることを目的に、登り田遺跡（姫路市継）において、約3か月、発掘調査の現場研修を受けました。研修の中で、特に学んだことは下記の2点です。

①発掘調査の手順・調査方法の理解

発掘調査の経験があまりないため、1つの調査区において最初から最後まで調査に携わることが出来たことは、有意義な経験となりました。機械掘削では、土の堆積状況を理解しながら進めて行くことの大切さを感じました。堆積状況が分からなければ、一度機械を止めて、調査区の一部をスコップで掘り下げてみるなど、具体的な作業方法を学ぶことができました。人力掘削では、遺構面が何面あるのか判断し、どのように面を下げていくか、作業員への指示の出し方が重要であることを学びました。

②土層の理解

調査区の土層を、正しく理解することが発掘調査において重要であることを、改めて認識することができました。土層の違いを判断するためには、実際に自分で土層の表面を削り、土色の違いだけでなく、土質・

礫の混じり方の違いなどを確認することを学びました。これは、当市で行う確認調査において、遺構面を判断する場合などで活かしていきたいです。

研修を通して、一つ一つの作業を着実に理解し、進めて行くことが重要であると思いました。そうするために、必要な作業を判断し、的確に指示を出すことが大切であると実感しました。今後、当市での発掘調査において、これらを意識しながら調査を進めていきたいです。今回、研修で参加したような大規模かつ長期間の発掘調査を、当市では日常的には行っていません。また、調査体制も同様で、専門の業者でない地元業者が参加したり、限られた調査員が担当しているのが現状です。しかし、発掘調査の進め方・方法などには変わりはありませんので、長期間、発掘調査現場に専念できたことで、発掘調査に必要な基礎的な能力を高めることができたと考えています。

この度、現場研修を受け入れていただいた兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部、研修の実施にあたりご配慮くださいました兵庫県教育委員会文化財課に感謝申し上げます。

（高砂市教育委員会 宮下愛美）



研修指導の様子



地元説明会の様子

ひょうごの 掘り出しもの

平安時代の後期、末法の世になり弥勒が現れる未来に備えて仏教の經典を納めたものを経塚と呼んでいます。後には追善供養や、交通の要衝などにも造られるようになります。

豊岡市の田多地経塚は、正式な発掘で経塚が調査された兵庫県で最初期の例であり、私は1983年度の調査に参加しました。

田多地経塚は、出石川を望む丘陵頂の古墳上にあり、3基の埋経施設から、銅製や土師製の経筒、小刀・鉄鏃等が出土し、銅製の経筒内には朱書きの法華経が残されていました。

2014年、新温泉町の対田清水谷古墳群の発掘



～第3回～ 経塚のある風景

（新温泉町 対田清水谷経塚）

調査打ち合わせで山に登ったところ、5号墳上で、山の上にはないはずの川原石が落葉に埋もれて露出していることに気がつきました。ここからは久斗川が日本海に流れるのを望むことができ、田多地経塚とも似ています。

発掘が進むと、墓坑の隅から板石が小石室状に組み合わせられているのが現れ、石室の中から銅鏡（州浜山吹双鳥鏡）や銅銭等が出土しました。経筒は木製のものだったようで残っていませんでした。

見晴らしのよい古墳の上に登ると、つい経塚があるのではとってしまいます。

（調査第1課 別府洋二）



対田清水谷経塚石室と出土した銅鏡

本誌に掲載の遺跡

- ① 池尻東山遺跡
小野市池尻町
- ② 市場南山1号墳
小野市市場町
- ③ 中村遺跡
養父市大屋町
- ④ 玉津田中遺跡
神戸市西区平野町
- ⑤ 登り田遺跡
姫路市継

Onaka Site 60th Anniversary
大中遺跡発掘60周年記念
春季特別展

弥生集落 転生

— 大中遺跡とその時代 —

2022.
4/23日 - 7/3日

兵庫県立考古博物館
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

編集後記

令和3年度下半期の調査成果は、本号と次の106号に分けて掲載します。貴重な発見が多くありましたので、次号もお楽しみに！

（調査第1課 稲本悠一）



『ひょうごの遺跡』バックナンバーはこちら！

<http://www.hyogo-koukohaku.jp/publication/remains/remains.html>

http://www.hyogo-ctc.or.jp/ctc/business/storage/storage_1.html

1～82号

考古博物館HP



83号～

CTC HP



CTC 公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
Hyogo Construction Technology Center for Regional Development